

中学生が現場を見学

東北地方整備局と、復興建設協会の共催による、平泉町立平泉中学校(三浦英子校長)2年生69人を対象とした復興工事の現場見学会が17日、陸前高田市今泉地区で進む区画整理事業のベルトコンベヤ

東北地方整備局と、復興建設協会の共催による、平泉町立平泉中学校(三浦英子校長)2年生69人を対象とした復興工事の現場見学会が17日、陸前高田市今泉地区で進む区画整理事業のベルトコンベヤ



ベルトコンベヤの中央制御室で説明を受ける生徒ら

被災地の復興事業について理解を深めた。整備局では各県で現場見学会を開催しており、本県協会との共催による見学会は今回で2回目。当日は、はじめに今

泉地区・高田地区の整地工事を請け負う清水・西松・青木あすなろ・オリエンタルコンサルタツツ・国際航業JVの現場事務所で、担当者が工事の内容を紹介した。

その後、生徒らはベルトコンベヤの中央制御室へ移動。実際に岩石が砕かれ、コンベヤで土砂が搬出される様子を見学した。

ベルトコンベヤを使用する今泉地区の整地面積は22畝で、掘削土量は約640万立方メートル。工事担当者は、コンベヤは秒速4メートル動き、1時間当たり5000〜5500トンほどの土砂を、約2分先に搬送している状況を解説。現在までに約45%の切土を終えていることなどを説明した。

生徒らは、碎石による土煙や、搬出機械の作動音を体感しながら、復興工事のスケールの大きさについて学んでいた。